

## 能登トキ放鳥推進シンポジウム

日時 2022年7月24日 13:30~16:00

場所 田鶴浜地区コミュニティセンター

基調講演

- ・本州でのトキ復活に向けて  
環境省トキ復帰検討委員会委員 小宮輝之
- ・人とトキが共に生きる島づくり  
佐渡市長 渡辺竜五

パネルディスカッション

- ・コーディネーター  
小谷あゆみ（フリーアナウンサー）
- ・パネリスト  
齋藤真一郎（有限会社齋藤農園代表取締役）  
川端啓介（豊岡市コウノトリ共生部長）  
藤田繫信（JAおおぞら代表理事組合長）

馳浩石川県知事挨拶



## 会場の様子



小宮輝之氏が「夢に翼を」と題し基調講演



佐渡市長 渡辺竜五氏

### 講演概要

- ・「人とトキが共に生きる島づくり」を目指し当時佐渡市の担当係長として住民合意の形成に奔走
- ・トキの放鳥・繁殖に欠かせないのは水田での餌場確保であり、認証米制度を定着させた、認

### 講演概要

- ・加賀藩は江戸時代にトキを大切にし、羽を購入した
- ・明治時代に乱獲され、大正期には農薬等により餌が無くなるとともに繁殖能力が衰え激減
- ・本州最後のトキ「能里」が能登で捕獲される
- ・能登は放鳥地として有力である、8月10日頃に候補地の決定

証米制度により佐渡米のブランド化を図り、全国に販売を強化し認証米の販売数量を大幅に増やした

- ・ 認証米として認められるには、減農薬耕作、畦の草刈り（除草剤はダメ）、冬田圃の水張等の実施が条件になる
- ・ 最大で1,200ha程度の参加がありました
- ・ 近年では耕作者の減少高齢化が問題になっている

パネルディスカッション

齋藤真一郎氏



- ・ 齋藤氏自身50haの水田を減農薬で耕作している、特に「ネオニコチノイド系農薬」の使用は不可である、夏場の餌の昆虫・ミミズ等に被害がある
- ・ 子供を対象に生き物調査を実施している

川端啓介氏



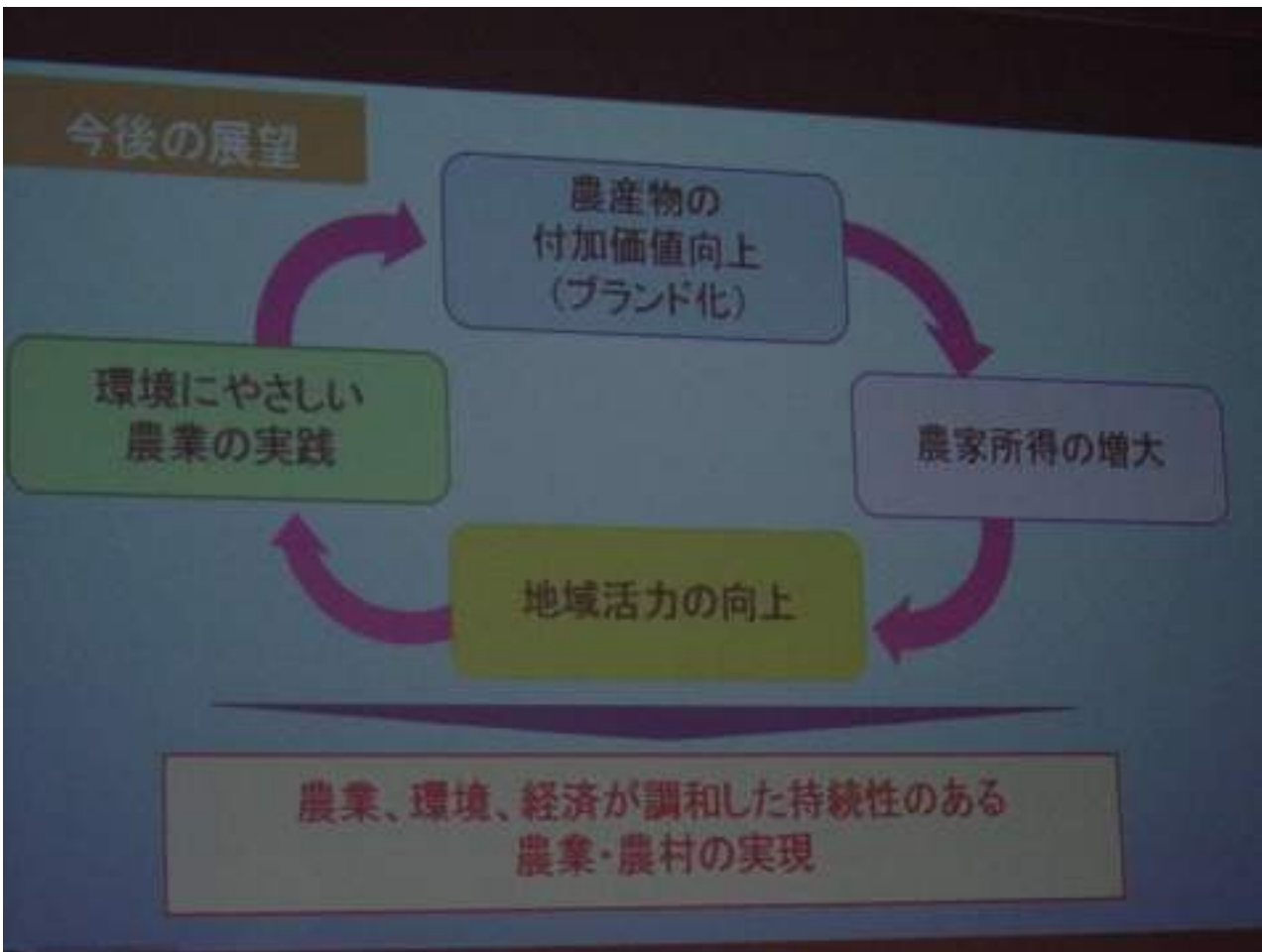
- ・ コウノトリを育む農法を2001年から推進し水稲策付け面積が着実に増加し、今年には野生でのコウノトリ数が300羽を超える勢いである
- ・ 私はコウノトリ共生部長ですがコウノトリの繁殖には農業との共同が欠かせないので、部の構成はコウノトリ課と農政課とし連携を密にしています

## 藤田繁信氏



- ・トキの放鳥への取り組みはこれからです、佐渡や豊岡市の取り組み、環境省及び県の指導を仰ぎ、関係6JAが協力して放鳥のための環境整備を進めたい
- ・現在は世界農業遺産地域として減農薬農業を進めている、能登地域には約10,000haの作付けがあり、その61%が化学農薬を3割削減しています、5割削減は1%に過ぎません、これを増加する必要があります

## 今後の課題



## 県立津端高校「朱鷺サポート隊」による取り組み発表

取り組み発表のあと馳浩石川県知事に千羽朱鷺を贈呈



- ・千羽朱鷺の制作
- ・ビオトープ作成とドジョウの養殖
- ・水田等の生物調査
- ・佐渡との交流事業
- ・いしかわ動物園での定期発表